

令和6年度小学校教科教育推進研修（国語科）研修成果物（指導について）

指導者 Aグループ 尾道市立三成小学校 森野 絢美
指導学年 第1学年1組 21名

1 単元名及び教材名

ここがすごいぞ！みんなにおしえたい「のりものカード」をつくろう！

「いろいろなふね」「『のりものカード』をつくろう」（東京書籍「新編 あたらしいこくご 一下」）

2 児童観

本学級の児童は、これまで、説明的な文章「どうやってみをまもるのかな」の学習を通して、文章をまとまりで捉え、その中から問いと答えを見つけて読むことを学習している。ほとんどの児童が該当の段落に書かれていることの大まかな内容を捉えることができていたが、特定の部分のみを読み、内容の大体を捉えることが難しい児童が3名いた。さらに、ワークシートを用いて「からだのとくちょう」や「みのまもりかた」を文章から選び出す際には、該当部分以外の文章も抜き出してしまう児童が4名おり、必要な情報を適切に見付けるための重要な語や文を考えて選び出すことに課題が見られた。

また、考えの形成については、文学的な文章「サラダでげんき」の学習において、内容理解の後に、「りっちゃんのサラダ」に入れたら良いものを考える活動をする中で、自己の経験や本で読んだことのある知識を結び付けて自分の考えをもてるようになってきている。一方で、感想を書く際には「おもしろかった」や「すごかった」などの簡単なものに留まるなど、学習の内容と自分の思いをつなげて表現することには課題が多い。

これらのことから、本単元では、文章の構造を大づかみに捉えて読み、文章の中から重要だと考えられる文を適切に見付けることに加え、文章の内容と自分の体験や知識とを結び付けて感想を表現できるように手立てを講じる必要がある。

3 指導観

指導に当たっては、文章の内容理解をした後、内容と体験とを結びつけて感想をもつことで、考えが形成できるような単元を構成する。

内容理解に当たっては、4つの船の事例にはそれぞれ「やく目」と「つくり」が示されていることについて、接続語を用いて文と文の関係を捉えさせたり、該当する箇所を色分けしたりしながら読み、それぞれの船の「やく目」と「つくり」が理解できるようにする。また、それぞれの船の説明を比べて読ませることで、4つの船の共通点や相違点とともに、どの船の説明も同じ順序で説明されているという段落構成に気付かせる。

考えの形成に当たっては、教材文を読む段階でその船について知っていることや、自分たちの身の回りの乗り物と類似している点などを自由に想起させ、付箋に書き溜めるとともに、その都度掲示する。第三次では、調べた乗り物の「すごいところ」を紹介する「のりものカード」を作成し、お互いに乗り物を紹介する活動を設定する。カードを作成する際には、内容理解の際の活動と同様に、身の回りの乗り物と比較したり、自己の体験と結び付けたりしたことを付箋にためていき、感想をもつことができるようにする。その際に「すごいと思った」のような短絡的な感想に留まってしまうように、ワークシートを一枚ものにしたり、教師との対話を通して、体験と比較して考えを深めたこととつなげて、すごいと思った理由などを踏まえた感想が書けるようにする。また、「すごいところ」が伝わるかどうか、相手に説明し、その感想を求める活動を通して、協働的に学習を進められるように仕組む。

4 指導と評価の計画（全 15 時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・ <u>評価方法</u> 等
一	1 ・ 2	学習の見通しをもつ。 ・乗り物に関する本の考え聞かせを行い、学習に対しての関心を高める。 ・教材文の範読を聞き、感想を交流する。 ・学習の計画を立て、単元のゴールの見通しをもたせる。				
	3	・「いろいろなふね」を読み、内容の理解をする。 ・「始め」「中」「終わり」の段落構成を捉え、船の役目と造りが説明されている文章であることを捉える。				
二	4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	・「きやくせん」「フェリーボート」「ぎょせん」「しょうぼうてい」について、それぞれの内容をワークシートに整理するとともに、自分の体験や知識とつなげて、感想をもつ。 (例) 客船 ホテルや旅館と同じようにゆったり過ごせるし、移動もできるからすごい。 フェリーボート カーキャリアのようにたくさんの車を乗せられるし、移動先で車を使えるからすごい。 漁船 釣り比べて魚の群れを見付けられたり、広い海の中から場所を選んだりして、たくさんの魚が獲れるからすごい。 消防艇 消防車と同じような造りになっていて、海上での火事も消せるからすごい。				
	8	・文章全体を読み、「いろいろなふね」における順序を捉え、説明の書かれ方について理解する。	○			〔知識・技能①〕 <u>ワークシート</u> ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。
三	9 ・ 10	「のりものカード」を作る。 ・みんなで乗った経験のある大型バスについて、役目と造りをおさえて、全員でのりものカードにまとめる。 ・みんなにすごさを伝えたい乗り物について調べる。				

	11 ・ 12 (本時)	- 調べた乗り物について「やく目」「つくり」とそれによってできることをキーワードでまとめる。 - 自分の家にある自家用車と比べて理解を深め、すごいと思うところをまとめる。		○	〔思考・判断・表現①〕 のりものカード 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 〔思考・判断・表現②〕 のりものカード 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもっている。
	13 ・ 14	- グループで交流し、経験と結び付けたことや解釈したことが伝わるか確かめる。 - カードにまとめたものを、紹介し合う。		○	〔主体的に学習に取り組む態度①〕 児童の様子 進んで、文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもち、今までの学習を生かして、考えたことを文章にまとめようとしている。
	15	学習について振り返る。 学習全体を想起し、単元で付いた力を振り返り、これからの学習に生かせることを考える。			

5 本時の学習

(1) 本時の目標

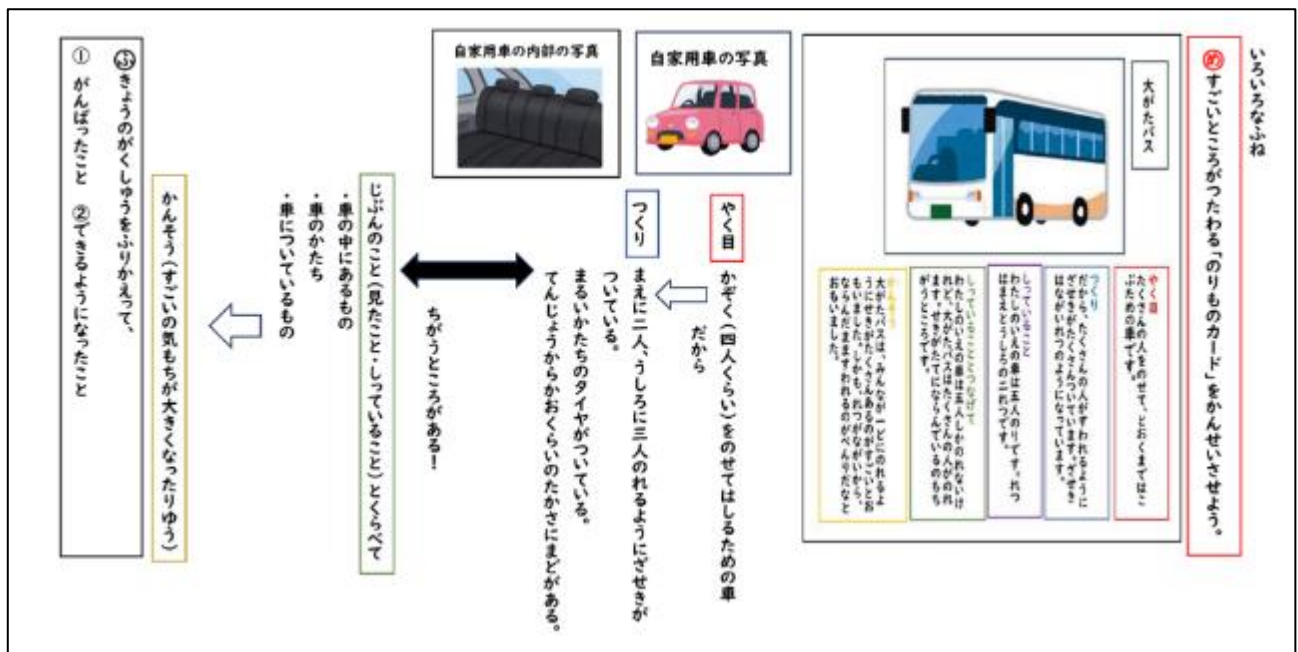
調べた乗り物の役目と造りについて、自分の体験と結び付けて解釈し、考えたことや感想を表現することができる。

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
1 学習の見通しをもつ。 2 本時のめあてを確認する。 3 選んだ乗り物の役目や造りと、じぶんの体験や知識とを比べる。	○学習計画を提示し、単元における位置づけを確認する。 すごいところが見つかる「のりものカード」をかんせいさせよう。 □おうちの車と選んだ乗り物とを比べて、どんなところがちがっているのでしょうか。 - わたしの家の車にはベッドはついていないけれど、選んだ乗り物の救急車には、人が寝転ぶことができるベッドが付いている。 - ぼくの家の車のタイヤは丸い形のものが4つ付いているけれど、選んだブルドーザーのタイヤは横長の形のものが2つ付いている。 ○自家用車の役目を全体で確認した後、それぞれの乗り物の造りと比較するように発問する。 ○相違点が多い乗り物を選んでいる児童については、役目を想起させ、そこにつながる造りについて自家用車と比較するよう声をかける。	

4 役目と造りについて解釈し、感想を表現する。 5 学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	◆一般的な自家用車の写真と選んだ乗り物の写真を比較し、視覚的に違いを捉えられるようにする。 □選んだ乗り物について、図鑑を見て決めた時と比べて、「すごい」の気持ちが大きくなったところはどこですか。 ・わたしの家の車も寝転ぶことはできるけど、ぐらぐらしてしまう。救急車には具合の悪い人やけがをした人が乗るから、しっかり寝られるベッドがついているんだ。乗る人に合わせて作られているのがすごいから、みんなにも知ってほしい。 ・丸いタイヤだと、工事現場の大きな石の上を進めないけど、横長のタイヤならガタガタしたところを乗り越えられる。ブルドーザーは地面をならす役目をしているということは、通るところがガタガタしているからタイヤの形が違うんだ。場所に合わせて作られているのがすごいと思った。 ○選んだ車の「すごい」と思う理由を、役目と造りとをつなげて解釈し、表現できるようにする。 ○選んだ時の簡単な感想よりも深まるように発問する。 ◆なぜその車を選んだのか想起させ、対話しながら「すごい」と思ったポイントを明確にしていく。 □今日の学習で頑張ったことを振り返りましょう。 ○ 単元の付けたい力に沿って振り返りを書くよう指示する。 ○ 単元のゴールに向けて、必要なことを確認し、次時の見通しをもてるようにする。	〔思考・判断・表現②〕 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもっている。（のりものカード）
--	---	--

(3) 板書計画



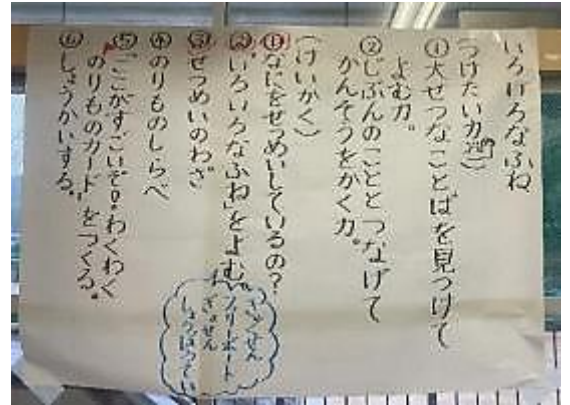
6 指導の実際

(1) 指導上の工夫

ア 見通しをもって学習に臨ませるための工夫

学習前に、朝読書の時間を活用して乗り物に関する本の考え聞かせを行った。児童は自分たちの知っている乗り物の特徴や働きについて話したり、友達が話す、自分の知らない情報に耳を傾けたりして、乗り物への興味・関心を高めていた。この手立てによって、学習前から自家用車の特別な仕様や、登下校中に見た乗り物について教師や友達に話をするなど、乗り物について日常で意識する機会が増え、本単元の学習につなげることができた。

また、児童と学習計画を共に立て、単元のゴールを明確にし、目的意識をもって学習に取り組めるようにした。これまでの学習でも同様に単元の1時間目に学習計画を立ててきたため、児童は単元のゴールを設定すること、それまでに必要な学習内容について、話し合うことができるようになってきた。本単元で付けたい国語の力を明確にし、その過程として必要な学習内容を共有し、単元の学習期間に教室に掲示したことで、常に目的意識をもつとともに、見通しをもって学習に取り組むことができた。



(学習計画の掲示)

イ 内容理解のための工夫

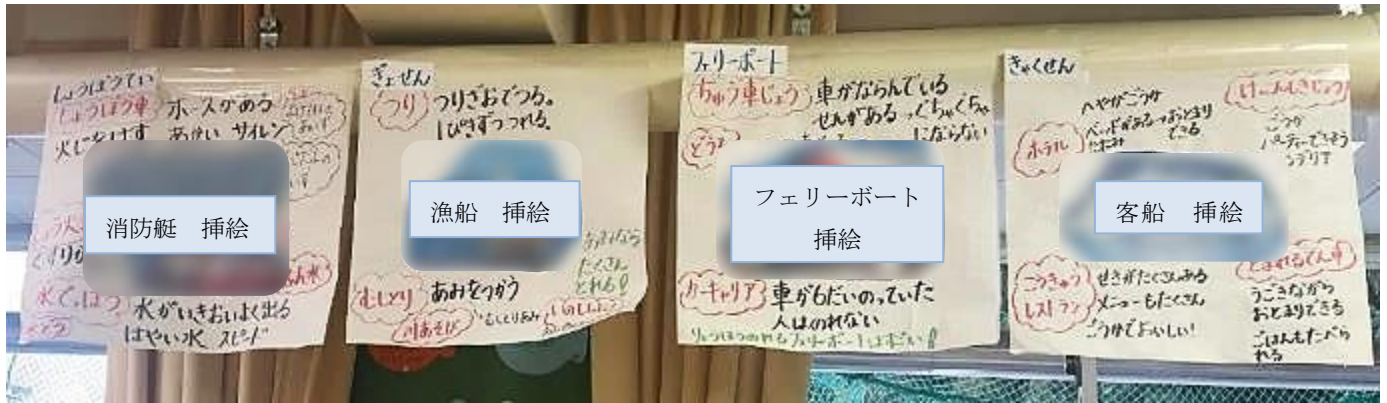
教材文にはそれぞれの船の役目と造りが記されている。児童が本文の「やく目」と「つくり」を読み取り、文と文の関係を捉えて読むことができるように、「～のための」や「あります」といった言葉に着目して色分けをしたり、接続語を用いて文と文とをつなげたりして読ませた。教材文の船ごとのワークシートを用いて学習を進め、4枚を並べて比較することができるようにしたこと、それぞれの船に役目と造りの説明があることを一目で捉えることができ、どの船の説明も同様に繰り返されていることに気付かせることができた。さらに、「フェリーボートは人と自動車を運ぶから、人を運ぶ客船とちがって車を停めておくところもあるのだと分かった。」など、4つの船の造りを比較して読むことができる児童もいた。



(接続語を加えて文章のつながりを捉えた授業の板書)

ウ 考えの形成を促す工夫

教材文の4つの船について詳しく読む授業の中で、自分たちの知っている乗り物や事柄との共通点を見付け、自分も持っている知識や経験と結び付ける活動を取り入れた。例えば、客船について読んだ際には、「この前行った結婚式の会場と似ていて豪華な食堂がある。」や、「ホテルみたいに泊まれる部屋があるのに、行きたい場所にも連れて行ってくれるからさらにすごい。」といった内容を共有し、自分の体験とつなげて理解を深めるとともに、客船について感じたことを感想としてまとめることができた。



(文章の内容と自分の体験とを結び付ける活動後の掲示)

(2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

ア 「やく目」と「つくり」をつなげて考えることが難しい児童

「役目を赤色、造りを青色、その造りによってできることを緑色」というように、書かれた文章をそれぞれ色分けしたことで、どの段落が役目の内容なのかを捉えることはできたが、「赤の次は青」というように、内容を読まずに色分けをする児童がいた。

[講じた手立て]

全体で「やくめ」の文章と「つくり」の文章を「だから」という接続語を付け加えて読ませることで、「フェリーボートはたくさんの人と車を運ぶ。『だから』客室や車を停めておくところがある。」といった関係を見付けさせた。考えることが難しい児童には、個別に、「なぜ車を停めておくところも必要なのか。」を加えて問うことで、その前に書いてある役目の文章に注目させることができ、役目と造り、それによってできることの3つの文章をつなげて捉えることができるようになった。

イ 自分の経験や知識と結び付けることが難しい児童

「のりものカード」を作成する際に、自分が選んだ車の特徴的な部分を紹介するために、自分の体験と結び付ける活動を行ったが、選んだ車の特徴的な部分とつながるような体験を想起することが難しい児童がいた。

[講じた手立て]

自分の体験として想起できるように、自家用車の造りについて付箋に書き溜め、結び付ける材料として手元に残した。選んだ車のこういったところが「すごい」と思ったのか、特徴的な部分(例: はしご車のはしご、アイスクリーム販売車の冷凍庫設備)を取り上げ、自家用車の設備と比較しながら選んだ車の「すごい」部分について考えさせた。また、一人で考えることが難しい児童には、「うちの車にはこんな機械がついている？」などの質問をし、対話しながら体験と結び付けさせた。

(1) 評価の具体

①～④の内容につながりをもたせてまとめているものを「おおむね満足できる」状況（B）とした。

「ついでにカーナビのにもカード
 入れておいてね」

ついでに
 カーナビ

「カーナビの人は、おかし
 た人とのせるとい
 います」

ついでに
 カーナビ

「カーナビの人は、おかし
 た人とのせるとい
 います」

「カーナビの人は、おかし
 た人とのせるとい
 います」

ついでに
 カーナビ

「カーナビの人は、おかし
 た人とのせるとい
 います」

このがすけにぎやわんわんのにものカード

やんぱん車



さくら

アがみやはがきをあげては二番たの車です。

アは、大ぎくひらきま。

二つ、いています。ドアは大きくあきません。

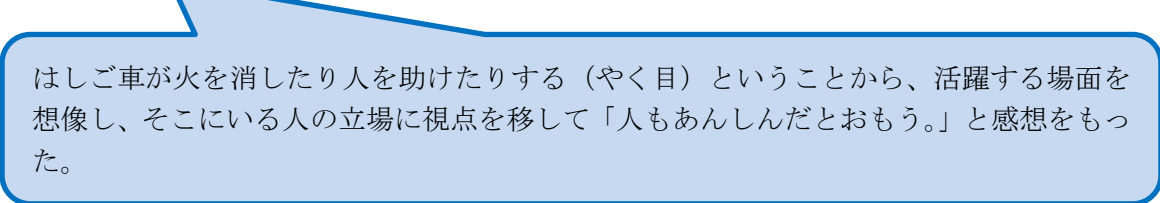
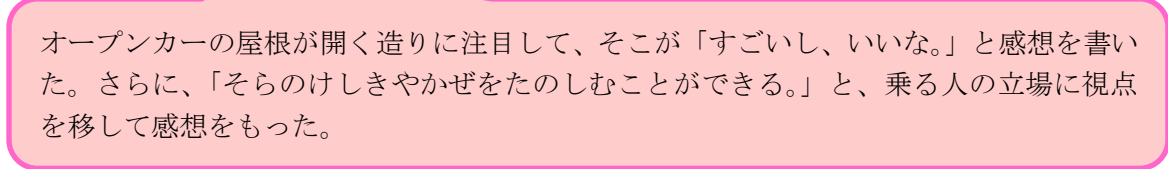
わたしのいえとんがいてドアが、ボクンを

おしたらひらくので、すぐがががときます。

やんぱん車は、にもつかいはいいはいるし、は二番るからいいなとおもいます。

郵便物をたくさん入れる（やく目）ための、ドアの開き方（つくり）に注目した。
自家用車のドアの開き方と比べながら、「いいな。」と感じた根拠を明確に書いている。

「十分満足できる」状況（A）の児童の成果物



(2) 児童の評価

「十分満足できる」状況（A）の児童は4人、「おおむね満足できる」状況（B）の児童は13人、「努力を要する」状況（C）の児童は4人であった。「努力を要する」状況（C）の児童は、想起した体験が役目や造りと直接つながりにくいものであったり、感想が役目や造りと関連していなかったりしたため、個別に対話をして①～④の項目がつながるように支援した。

8 成果と課題

(1) 成果

これまでも説明的な文章を読むことはあったが、自分の体験と結び付けて感想をもつまでの十分な指導はできていなかった。児童は教材文を読み、並行読書をするという経験はあるものの、考えの形成の段階に入ると、最初は難しさを感じていたようだった。しかし、教材文と自分の体験が結び付くという経験をさせることで学習への意欲は大きく向上した。自分の知っていることを次々に交流したり、それを教材文の解釈に生かしたりする姿が多く見られ、教師の発問は多くなくとも児童が学習に前のめりに向かうことができた。考えの形成を促すための考え聞かせの時間や、体験を想起させる手立てが効果的に働いた。

児童の感想についても「すごい。」や「かっこいい。」といった単純なものから、心が動いた理由が明確なものや道筋立てられた記述が見られるようになった。単元全体を見通して学習に臨み、つながりが見えやすいワークシートを使用したことで、児童にとっても単元の活動がつながりのあるものとなり、中身の伴った感想を書くことができたと考える。



（本を使って調べ、のりもののカードを作る様子）



（児童同士で交流・推敲する様子）



（上級生に乗り物のすごいところを紹介する様子）

(2) 課題

教材文を読む際には「やく目」と「つくり」を選び出すことができたが、カードを作成する際に本の文章から同じように選び出すことが難しかった。教材文で役目と造りについて関係を捉えて選び出すことを指導したつもりであったが、文章が長くなったり、役目とは直接つながらない造りの記述があったりすると選び出すことができない児童がいた。また、使用した本によっては既に役目と造りが分けて書いてあるものも多くあり、この部分については評価を同様に行うことはできなかった。児童

にできるだけ自由に選ばせたいという思いと評価の部分で釣り合いをとることに課題が残った。

考えの形成については、カードを作成する際に、「じぶんのしていること」「していることとつなげて」「かんそう」というように細かく分けて書いたが、体験とそれをつなげて解釈することを分けて書くことに難しさを感じている児童がいた。また、ワークシート上では「すごいと思った。」という感想に留まっていたが、対話を通してその思いを掘り下げていくと、その感想に至るまでの思いをもっていたり、体験とつなげたことが分かったりした児童もいた。思いをもっているが文章に起こすことが難しい児童について、思考したことを適切に評価する手立てが必要だった。一人一人対話することは難しいため、感想とその理由を書く欄をワークシートに付け加えたり、友達と共有して推敲している場面を動画等で残したりする方法も考えていきたい。さらに、細かく分けられた欄があるワークシートと大きく捉えたワークシートとを用意し、実態に応じて使い分けたり児童自身が選択したりできるようにしてもよかったのではないかと考える。

(3) 今後に向けて

本単元では考えの形成を重視した学習を進めた。当初は難しいのではないかと考えていたが、児童は大変意欲的に学習に取り組むことができた。普段から、教師が考えの形成までを見通して教材研究を進め、単元構成を考えることの大切さを感じることができた。また、感想部分を評価するにあたって、一人一人の記述が大きく異なるからこそ、どのような内容を十分満足できるものとして評価するのかを具体的に想定しておくことが必要であった。そのことが児童に何を考えさせたいのか、そのためにどのような場の設定ができるのかを考えることにつながると感じた。説明的な文章以外の単元でも生かすことができるよう、学びを整理していきたい。

さらに、義務教育終了段階までの目指す姿を明確にし、それぞれの学年でどのような力を付けさせるのかを段階的に示し、系統的な指導に生かせるように学校全体でも共有する必要があると思った。

付録 選書リスト

書名	著者名	出版社名
ふねがきた！	笠野 裕一	福音館書店
のびるじどうしゃ	平山 暉彦	福音館書店
のぞいてみよう！いろいろなのりもの	松島 浩一郎	JTBパブリッシング
はたらくじどう車 しごととつくり① ブルドーザー ショベルカー	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり② しょうぼう車 きゅうきゅう車	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり③ パトカー 白バイ	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり④ バス トラック	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり⑤ ごみしゅうしゅう車 ゆうびん車	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり⑥ じょうよう車	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車スーパーずかん① 町や人をまもる じどう車① しょうぼう車	小賀野 実 (監修・写真)	ポプラ社
はたらくじどう車スーパーずかん② 町や人をまもる じどう車② パトロールカー きゅうきゅう車	小賀野 実 (監修・写真)	ポプラ社
はたらくじどう車スーパーずかん③ こうじげんばではたらく じどう車 ブルドーザー パワーショベル	小賀野 実 (監修・写真)	ポプラ社
はたらくじどう車スーパーずかん④ 人やものをはこぶ じどう車 バス トラック	小賀野 実 (監修・写真)	ポプラ社